地理歴史科「地理Ａ」学習指導計画

指導者　高木　優

単元名　　**温帯の気候と人間の活動**

１．日時　平成 26 年 1 月 20 日（月）第 5 校時

２．場所　5 年 3 組教室

３．単元設定の理由

(1)教材観

この単元は，自然環境と人間の活動を相互に関連づけて追究し，温帯の影響を受ける地域の生活・文化を地理的に考察する視点や方法を身に付けさせるとともに，結びつきを強めるＥＵとその構成国である国家の地理的，歴史的立場の違いから起こる各種の社会・経済システムを考察させることを主なねらいとしている。また，今回取り上げるヨーロッパ諸国は地理的にはもちろん，歴史的にまた，政治・経済的にも我が国と関係が深く，グローバルなスケールとローカルなスケールの二つの視点から探究するのに適している。

現在の日本が築こうとしている，ＡＰＥＣやＴＰＰなどの国際関係は，これまでにヨーロッパでＥＦＴＡやＥＵなどを設立し，それらを発展・維持する過程で，すでにいくつかの問題として経験してきている。これらを学習することは，これから日本が新しい国際関係を結んでいく際に必要な，グローバルキャリア人としての資質をさらに深めることができる。

地歴公民科では，現代世界が突きつけられている問題や課題について考え探究し，それらの問題や課題の解明・解決に取り組んでいくことのできる知性・智恵・実践的能力としての教養を，グローバルキャリア人としての本校の生徒が身につけるべきであると考えている。その中で，自然環境と人間の活動を相互に関連づけて学習することで，国際的な視野をもち未来を切り拓くグローバルキャリア人として，さまざまな視点から，生活・文化や社会・経済システムの相違点や共通点を正しく見つめるための礎となる，情報をそのまま受け入れるのではなく情報の使い手となるための，情報リテラシーを育成することができると期待される。

(2)生徒観

事前調査の結果は，以下のとおりである。

1. 地理歴史科への興味はありますか
   ①大変興味がある(17%)　②興味がある(83%)　③あまり興味がない(0%)　④全く興味がない(0%)
2. 自然地理的分野と人文地理的分野のどちらに興味がありますか
   ①自然地理的分野に興味がある(45%)　②人文地理的分野に興味がある(48%)　③どちらにも興味がある(7%)
   ④どちらにも興味がない(0%)
3. 地理Ａの学習内容のうち，どの分野に興味がありますか
   ①系統地理的分野(31%)　②地誌的分野(45%)　③主題学習的分野(24%)
4. 西ヨーロッパと聞いて思い浮かべるものは何ですか（複数回答可）
   ①フランス８名　②スペイン７名　③イギリス４名　ポルトガル４名
5. 南ヨーロッパと聞いて思い浮かべるものは何ですか（複数回答可）
   ①イタリア 10 名　②ギリシャ５名　③ローマ３名　地中海３名
6. 北ヨーロッパと聞いて思い浮かべるものは何ですか（複数回答可）
   ①ハイジ７名　②デンマーク３名　フィンランド３名　ノルウェー3 名
7. 東ヨーロッパと聞いて思い浮かべるものは何ですか（複数回答可）
   ①わからない・特になし９名　②ルーマニア４名　③　ポーランド３名　ロシア３名
8. ヨーロッパ諸国と日本は良好な国際関係を築く方がよいと思いますか
   ①良好である方がよい(93%)　②良好でなくてもよい（0%）

地理歴史科への興味の項目では全員，興味がある以上になるなど，学級全体として地理歴史科に非常に意欲的に取り組んでいる結果となった。分野別興味の項目を見ると，人文地理的分野でかつ地誌的分野に興味を持つ生徒が多い結果となったが,それほど特定の分野に偏っていないことが分かった。単元に関する基礎知識の事前調査では,西ヨーロッパや南ヨーロッパでイメージされるものは多いが,

北ヨーロッパや東ヨーロッパへの印象は強くない結果となった。特に近年日本と関係を深めている東ヨーロッパの印象が非常に薄く，これまでの東ヨーロッパの歴史的背景を踏まえて現在の東ヨーロッパの姿を正しく学習する必要性がある結果となった。本単元の学習後の調査で現在のヨーロッパの姿がイメージされることを期待したい。また，これからの日本とヨーロッパ諸国との関係については，良好な関係を求める意見が多数を占めた。これらの地域と日本の間のこれまでの関係性も踏まえより前向きな結果となった。

(3)方法観

本来地理学は，自然地理的分野と人文地理的分野が分離している教科ではなく，お互いが密接に関連している教科である。生徒への事前調査ではどちらかの分野に偏って興味を持っている生徒が多かったが,それぞれの分野を踏まえて学習することは 21 世紀型の教養の基盤形成にとって必要不可欠なグローバルな時空間認識を持ったグローバル人材として必要な自覚と資質を培うことになるとともに,本校が目指す国際的な視野をもち未来を切り拓くグローバルキャリア人の育成にも繋がる。

そこで,本単元では地理的思考を基礎としながら現代的課題を解決する地理的知識やスキルの応用,いわゆる地理的な見方や考え方を重視する。具体的には，さまざまな資料から情報を収集し，情報の意図，社会背景などを読解する情報読解力を用いて読み取る。読み取った情報をもとに，情報を批判的に考察し，相互尊重の態度で問題を解決する情報判断力を用いて判断を考察する。さらに考察された判断を，情報の発信，交流などのコミュニケーション活動を通し，社会に参画していく情報発信・交流力を用い発信する。この過程を繰り返すことで，思考する過程に深みを生み出し，情報リテラシーを育成することになる。学習後，学習されたテーマに対する思考の深さを，意思決定の判断の根拠となった理由を記述させることで評価する。

４．単元のねらいと構造

(1)単元のねらい

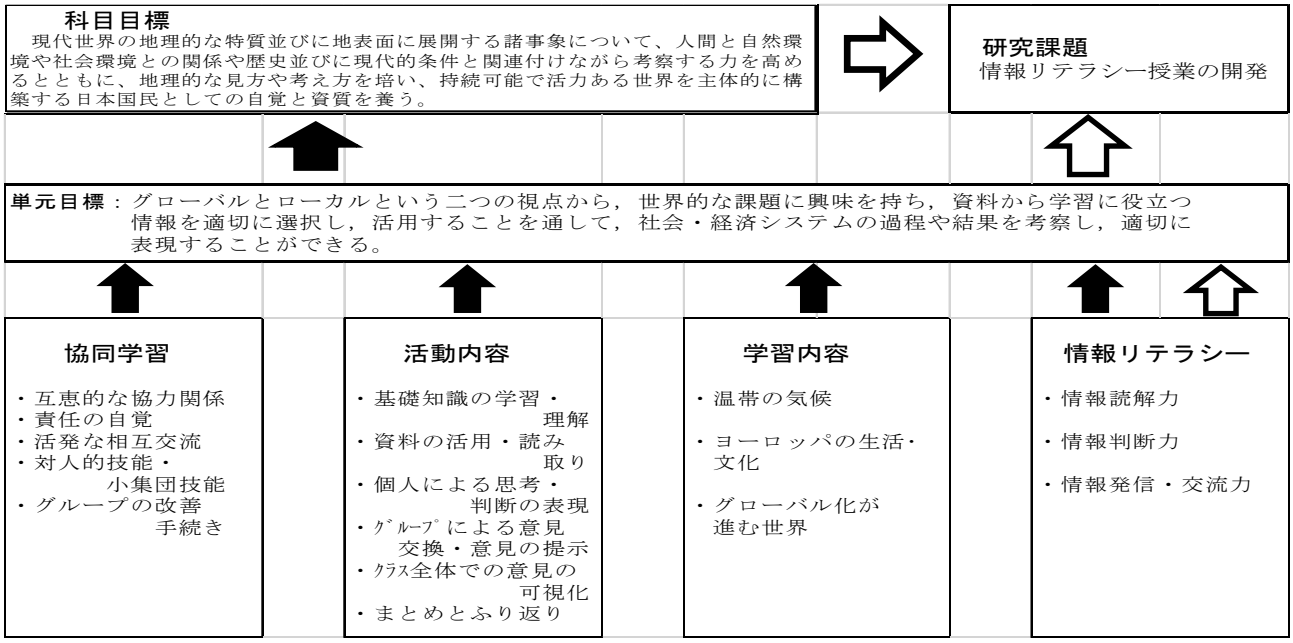
Ⅰ　自然環境と人間活動の関係性を追究する学習に意欲的に取り組み，国家間の地理的，歴史的背景を踏まえた国際関係のありかたについて，主体的に追求し，捉えようとしている。

Ⅱ　歴史的背景を踏まえ，地理的事象から課題を設定し，それらを多面的・多角的に判断するとともに，社会・経済システムの過程や結果を考察し，適切に表現することができる。

Ⅲ　資料から学習に役立つ情報を適切に選択，活用することを通して地理的に追究する技能を身に付けることができる。

Ⅳ　グローバルなスケールとローカルなスケールという二つの視点から，現代の世界的課題を解決に寄与するために必要な基礎的・基本的な知識や地理的技能を身に付けることができる。

(2)単元の構造



５．単元の展開と評価（全 12 時間）

時	主題	ねらい	評価の観点
	始 事前調査	1. 教科への興味・関心に関する調査 2. ヨーロッパ諸国に関する事前認識と日本との関係に対する調査	
［1次］ 1時 ～2時	［温帯の気候］ 温帯の気候と人々の生活	・これまでの学習から人々の生活が温帯の影響を受けていることが理解できる。 ・自然環境をふまえ生活・農業の特徴を知る。	Ⅰ Ⅳ
［2次］ 1時 ～2時	［ヨーロッパの生活・文化］ ヨーロッパの自然環境と文化	・これまでの学習からヨーロッパの特徴を説明できる。 ・自然環境や社会環境の特徴をふまえ，文化の変化を知る。	Ⅰ Ⅳ
3時	ヨーロッパの産業	・自然と対応した農業の特徴を知る。 ・工業と工業地域の変化を鉱業と関連づけて説明できる。	Ⅲ Ⅱ
4時 ～5時	ヨーロッパの統合	・ＥＵの成立がヨーロッパ社会に与えた影響を知る。 ・これからのヨーロッパ諸国と日本との関係について，判断しまとめる。	Ⅳ Ⅱ
6時 **（本時）**	東ヨーロッパと日本の関係	・東ヨーロッパのスケールの違いによる，イメージの違いを読み取る。 ・これまでの学習を踏まえ，これからの東ヨーロッパ諸国と日本の関係についてまとめる。	Ⅱ Ⅲ
［3次］ 1時	［グローバル化が進む世界］ 結びつきを強める世界	・国々の結びつきが，時代とともに変化していることを知る。 ・交通網や通信技術の発達による世界の変化を，資料から読み取る。	Ⅳ Ⅲ
2時	拡大する世界の貿易	・世界の貿易の急速的な拡大を，資料から読み取る。 ・日本の貿易品目の変化から，これからの日本の貿易の方向性について判断する。	Ⅲ Ⅱ
3時 ～4時	観光の国際化と人々の移動	・観光の国際化や人々の移動が，地域にどのような変化をもたらしているかを考察する。 ・地域によって異なる観光の特徴や多様化する観光の現状を踏まえ，身近な地域の観光プランを作る。	Ⅱ Ⅰ
	事後評価 終	1. 教科への興味・関心に関する調査 2. ヨーロッパ諸国と日本の関係に関する問題点についての知識定着度とその問題点に対する判断に関する調査	

【評価の観点】
Ⅰ　関心・意欲・態度
Ⅱ　思考・判断・表現
Ⅲ　資料活用の技能
Ⅳ　知識・理解

６．本時の学習（2 次 6 時）

(1)主　　題　　［ヨーロッパの生活・文化］　東ヨーロッパと日本の関係

(2)ね　ら　い　　・東ヨーロッパのスケールの違いによる，イメージの違いを読み取る。

・これまでの学習を踏まえ，これからの東ヨーロッパ諸国と日本の関係についてまとめる。

(3)教材観・方法観

東ヨーロッパは地表面での位置，自然的・人文的特徴がその成り立ちと変化，並びに日本との関係によって，生徒のイメージと大きくかけ離れている地域の１つである。一方で近年ますます，貿易や企業の進出，観光などの，人々の相互作用の関係が強まっている地域でもある。

その中で，様々な地図や資料を読み取ることで，イメージと現実との差違に気付き，国際的な問題解決能力の礎となる情報リテラシー，考察力の向上を目指す。

(4)指導と評価の計画

ねらい	主な学習活動・内容	評価方法と【評価規準】
東ﾖｰﾛｯﾊﾟのｽｹｰﾙの違いによる，ｲﾒｰｼﾞの違いを読み取る。	ｽｹｰﾙの違う資料から東ﾖｰﾛｯﾊﾟのｲﾒｰｼﾞの違いを読み取る。ｸﾞﾙｰﾌﾟで意見を交換し合い、発表する。	ﾜｰｸｼｰﾄへの記入(提出･内容)やｸﾞﾙｰﾌﾟ活動の発言の様子から、「ｽｹｰﾙの違いによる地域のｲﾒｰｼﾞの違いを読み取れたか」を評価する。【資】
これまでの学習を踏まえ，これからの東ﾖｰﾛｯﾊﾟ諸国と日本の関係についてまとめる。	これまでの学習を踏まえ、これからの東ﾖｰﾛｯﾊﾟ諸国と日本の関係についてﾜｰｸｼｰﾄにまとめる。	ﾜｰｸｼｰﾄへの記入(記述量･内容)から、「課題をこれまでの学習を踏まえ考察し，自分の考えを述べているか」を評価する。【思】

(5)本時の流れ

時	学習の流れ	生徒の活動	指導上の留意点 ・ 評価
0	時事問題の確認	○最近のニュースについて発表し，確認する。	○発表されたニュースに対して，簡単な解説を加える。
	本時の学習の主題と流れの確認	○本時の主題とねらいを確認する。	○本時の主題とねらいを確認させる。
5	東ヨーロッパのイメージについて ［役割］ Ａ：計時 Ｂ：報告・発表 Ｃ：リーダー Ｄ：もめないように	○東ヨーロッパのイメージについて考察する。 ○個人思考を踏まえ，グループに分かれて発表する。	○本時の授業の流れについて確認する。 ○グループ内の役割分担について責任を持たせ，議論を活発化させる。
10	①ヨーロッパ大陸から ②ユーラシア大陸から ③ヨーロッパ・ユーラシア大陸から	○スケールの違う３種類の地図から東ヨーロッパのイメージの違いを読み取る。	○３種類の地図を順番に配付し，ｲﾒｰｼﾞの違いを読み取らせる。 (評価)：評価資料(ｸﾞﾙｰﾌﾟ活動･ﾜｰｸｼｰﾄ) ○東ﾖｰﾛｯﾊﾟのｽｹｰﾙの違いによる，ｲﾒｰｼﾞの違いを読み取る。［Ⅲ］
25	東ヨーロッパの立場について ○資料Ａ・Ｂから ○資料Ｃから	○資料Ａ・Ｂから安価な労働力から企業進出が盛んになったことを確認する。 ○資料Ｃから市場としての近年の立場を読み取る	○資料を順番に提示し，そこから東ヨーロッパの立場を読み取らせる。 (評価)：評価資料(ﾜｰｸｼｰﾄ) ○これまでの学習を踏まえ，これからの東ﾖｰﾛｯﾊﾟ諸国と日本の関係についてまとめる。［Ⅱ］
45	東ヨーロッパのイメージについて	○これまでの学習を踏まえ，これからの東ヨーロッパ諸国と日本の関係についてまとめる。	
50	本時のまとめと次時の確認	○本時のねらいに対する自己評価とふり返りを行う。 ○次時の確認を行う。	○イメージだけにとらわれることなく，様々な資料から読み取ることで，その地域の多様性に気づき，日本との関係性の可能性が広がることを伝える。

使用教科書「地B-007　新詳地理B初訂版」（帝国書院）
使用地図帳「地図-010　新詳高等地図初訂版」（帝国書院）
使用資料集「新詳地理資料　COMPLETE2013」（帝国書院）